



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第  
9号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第9号). 泌尿器科紀要 1958, 4(9): 536-536

ISSUE DATE:

1958-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111649>

RIGHT:

## 編集後記

本年度の西日本皮泌科学会は8月27,28日徳島大学に於て荒川教授司会の下に行われた。台風17号は幸に当地を外れたが、きびしい残暑であつた。丁度この日から阿波踊が始まるので、街の気分が沸き立っていた。この土地にて学会が開かれるからには、堅い学問だけでなく、各地からの参会者に名物の踊を見せて旅情を慰めようとの企劃はまことに当を得たものであり、参会者にとつても有難いことであつた。然しそれだけに会場や旅宿の世話はたいへんであつたろうと察せられる。

学会場は自治会館であつたが、その立派なものには驚いた。広さ、設備、冷房装置など申し分なかった。学会の進行振りも全く順調であつた。参会者は300名位であつたろうか。一般演説はいずれも内容充実しており、殊に臨床にとつて直接に有益なものが多かったのは、地方会として甚だ適切であつた。特別講演として江本助教授は「腎不全に関する二、三の問題」に就て述べられたが、学会準備に極めて多忙なる上にこれだけの研究を行われたことに敬服した。もう一つの特別講演は大村教授の「前立腺の臨牀」であり、これは教室の大きな研究テーマの成果であり、教えられるところ多大であつた。学会に来ていつも感ずることは、研究意欲に対する刺激を受け、情熱を起させられることであつて、やはり来てよかつたと思う。学会にはなるべく出席すべきであると思う。

追加発表は一般には症例の追加、質問、討論等が多く、これに反し、演者に対する賛成意見や、感心したこと等が述べられることは少い。従つて追加発言が全く行われない場合には、賛成なのか、無関心なのかはつきりせず、演者にとつても何だか頼りない気がする。聴者からの何らかの反応が知りたいと思う。そこで質問や反論ばかりではなく、演者の説に感心したり、賛成である場合でも、卒直にその由を発言するのがよいと思う。賛成意見を述べることも一種の批評であり、演者はこれによつて自信を持つことが出来る。

近頃は学会演説のみに限らぬが、略符号が甚だ多く用いられる。例えば GFR, RPF, Tm PAH, MR, EPV, BSP 等、枚挙にいとまがない。これらの符号は用い方によつては極めて重宝便利であるが、学会場に於ける図表や演説の中に次から次へとび出してくると、その意味が判らなくなつてしまう。従つて用いる場合と、用い方によつては、この点に留意する必要があると思う。

### 購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。  
例。中野：泌尿紀要、1:110, 昭30. Lazarus, J. A.: J. Urol., 45:527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部